

日本語の文に関する一考察 講演者の発話に見る動詞「～なる」

渡邊ゆかり

広島女学院大学文学部

1. はじめに

日本語教育では、「なる」は、初級の段階で「信号が青になる」のような状態変化を表す用法として導入されるが、接客やプレゼンテーションの場面においては、状態変化を表さない「なる」がよく用いられる傾向にある。本発表では、2に示すコーパス中の表現例をもとに状態変化を表さない「なる」の用法の特徴ならびに各用法間の派生関係について述べる¹⁾。

2. 分析に用いたコーパス

- A01F0001,A01F0019,A01F0034,A01F0066,A01F0261,A01F0276「女性による学会講演その他」『日本語話し言葉コーパス volume5』国立国語研究所・情報通信研究機構(2004)

3. 考察

3.1 コーパス中に現われた「なる」のタイプと出現数

表1 出現数

									合計		
	A	B	A		B	B					
			a	b		a		b			
						文型1	文型2	文型1		文型2	
0001	2	2	0	0	0	0	6	3	4	1	18
0019	0	1	0	0	2	0	0	0	15	0	18
0034	1	0	1	3	0	1	1	1	1	2	11
0066	0	0	0	1	0	0	6	0	9	0	16
0261	0	0	0	0	1	0	13	0	10	0	24
0276	0	0	0	0	0	1	0	0	15	0	16
合計	3(3%)	3(3%)	1(1%)	4(4%)	3(3%)	2(2%)	26(25%)	4(4%)	54(52%)	3(3%)	103
	6(6%)		8(8%)			89(86%)					

表2 タイプ

<p>A 時の経過により生じる物事の変化A(ナルをデアルに置き換える、あるいは ナル、コト ナル、トイウコト ナルを省略することが不可能。)</p>	
<p>基本文型：[物事]ガ / [状態・内容] ナル</p>	
<p>B 時の経過により生じる物事の変化B (ナルをデアルに置き換える、あるいは ナル、コト ナル、トイウコト ナルを省略することが可能。 Bとしての解釈も可能。)</p>	
<p>基本文型：[物事]ガ / [状態・内容] ナル</p>	
<p>A 意図的な操作により生じる物事の変化A(ナルをデアルに置き換える、あるいは ナル、コト ナル、トイウコト ナルを省略することが不可能。 bは、 Aとしての解釈が可能。)</p>	
<p>a 主語の意図的操作による場合</p>	<p>b 主語以外の意図的操作による場合</p>
<p>基本文型：[物事]ガ / [状態・内容] ナル</p>	<p>基本文型：条件・状況を表す節 + [物事]ガ / [状態・内容] ナル</p>
<p>B 意図的な操作により生じる物事の変化B(ナルをデアルに置き換える、あるいは ナル、コト ナル、トイウコト ナルを省略することが可能。 Bとしての解釈も可能。)</p>	
<p>基本文型：[話題] ナルガ</p>	
<p>A 二つの物事の関係A(ナルをデアルに置き換える、あるいは ナル、コト ナル、トイウコト ナルを省略することが不可能。)</p>	
<p>基本文型：条件・状況を表す節 + [物事] ガ / [状態・内容] ナル</p>	
<p>B 二つの物事の関係B(ナルをデアルに置き換える、あるいは ナル、コト ナル、トイウコト ナル省略することが可能。)</p>	
<p>a 現場指示物との関係</p>	<p>b 非現場指示物との関係</p>
<p>基本文型1：[現場指示物]ガ / [状態・内容] ナル</p>	<p>基本文型1：[非現場指示物]ガ / [状態・内容] ナル</p>
<p>基本文型2：[状態・内容]ガ / [現場指示物] ナル</p>	<p>基本文型2：[状態・内容]ガ / [非現場指示物] ナル</p>

備考 []: 体言句を示す

:「は」「も」「ですけども」などの主題を導入する形式を示す

:「に」「と」の付加あるいは連用形形容詞語尾「く」「に」を示す

各タイプの具体例

- (1) 一組みのパルス長とパルス間隔(A アイピーアイ; I P I)の平均値はパルス送波開始当初はばらついていますが目標物に到達する時間にして(A 零・七; 0・7)秒前距離に換算すると約(A 一・九; 1・9)メートル前から徐々に{短くなってきてる / *短い}ことが分かりました (A01F0001) Aの例
- (2) しかし(F えー)基本周波数成分は殆ど確認できず気道内では最強であるが声道内で減衰し口外では(F えー){小さくなる / 小さい}というヒゲコウモリの報告と一致しております (A01F0001) Bの例
- (3) 知人同士二人一組{になって / *で}いただき (A01F0034) Aのaの例
- (4) 距離が遠のきますと腕降りの角度が{大きくなる / *大きい}でそうするとこの一回当たりの腕降りの運動量というのは(F と)距離が遠いと (A01F0034) Aのbの例
- (5) それでは音声は調音運動を促進したのかっていうまた話{になるんです / なんです}けれども (A01F0019) Bの例
- (6) 黒い方が聴覚のみの条件で距離の延長に伴い(F その)連体詞と迷う評価というのは(F え)順次{低くなっています / *低いです} (A01F0034) Aの例
- (7) こちらが時間波形で下が周波数の時間変化{になっております / です} (A01F0001) Bのaの文型1の例
- (8) どのようなパルスを発したかどのように(D パス)パルスを発したかを示したグラフがこちらのグラフ{になります / です} (A01F0001) Bのaの文型2の例
- (9) 基本周波数は四十キロヘルツで百二十キロヘルツの(F えー)(D だい)高調波を伴う(F えー)調波構造{になっております / です} (A01F0001) Bのbの文型1の例
- (10) 視線に困る顔が前面見えて落ち着かないなんていうことが理由{になっている / である}ようです (A01F0034) Bのbの文型2の例

- ナルをデアルに置き換える、あるいは ナル、コト ナル、トイウコト ナルを省略することが可能なものは、 B、 B、 B合わせて93例(90%)と使用頻度が高い。
- 時の経過による物事の変化を表すが、 Bの解釈は不可能な は、3例(3%)と、使用頻度が低い。
- B、 Aのb、 Bは、変化の解釈と関係の解釈の両方が可能。
- 二つの物事の間係を示す場合は、 ナルをデアルに置き換える、あるいは ナル、コト ナル、トイウコト ナルを省略することが可能なものとそうでないものがあり、後者の場合には、「～と」「～に伴い」などの状況・条件を表す節が用いられる。
- Bのa bともに基本文型1の方が基本文型2より使用頻度が高い。

3.2 それぞれのタイプの派生関係

A - B - A a b - Bの類似点：物事の変化。

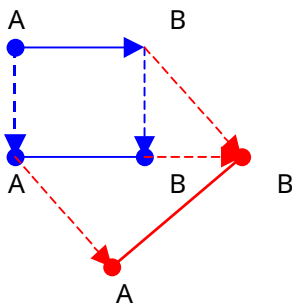
A - Bの類似点：時の経過により生じる変化。

A a b - Bの類似点：意図的な操作により生じる変化。

B - A b - B - A a b - Bの類似点：二つの物事の関係。

A - Bの類似点：二つの物事の間接的な関係を表すが、物事の変化は表していない。

図 1



4. 今後の課題

- 男性のコーパスの場合はどうであるか。
- 接客場面で耳にする「こちら、100円になります」「こちらきつねうどんになります」などと今回見たタイプとの関係。
- ナルをデアルに置き換える、あるいは ナル、コト ナル、トイウコト ナルを省略することが可能である場合に、「 なる」が好まれる理由。
- 「 ナル」に交換可能な「デアル」と「 ナル」に交換不可能な「デアル」との違い。

注

- 1) 今回は、尊敬語としての「 ナル」ならびに「カラナル」は扱わない。

参考文献

安達太郎(1997)『なる』による変化構文の意味と用法』『広島女子大学国際文化学部紀要』4

西山祐二(1995)『コピュラ文の意味と変化文の曖昧性について』『慶応義塾大学言語文化研究所紀要』27

池上素子(2002)『変化を表す『なる』 前節する語との共起制限を中心に』『日本語教育』112

Y. Matsumoto (1996) '5 Subjective-Change Expressions in Japanese Their Cognitive and Linguistic Bases' *Cognitive Theory of Language and Culture* University Chicago Press